

## 地域団体の紹介

### 常盤町自治会

常盤町自治会 会長 中東 恵子

常盤町自治会には、毎年行われる4大イベントがあります。地引網・常盤町ジャンボリー・バス旅行・新春もちつきです。

まず、春に行われる地引網は家族連れで楽しめる行事です。みんなで地引網を引き、シラスの釜揚げや天ぷらをいただき、子どもたちは浜辺で宝探し大人はビンゴゲームを楽しみます。

常盤町の最大のイベント常盤町ジャンボリーは、松浪コミュニティセンターの駐車場でききりや焼きそばなどの模擬店を行い、子どもコーナーでは、あてくじなどをします。自治会員の参加は無料です。

今回は、台風で中止となり残念でしたが毎年とても盛況です。

次に常盤町のバス旅行は、ランチが毎年とても充実していると評判です。今回は、築地市場、東京湾ランチクルーズ、相撲博物館見学というコースを堪能しました。

最後に、冬の新春餅つきでは、つきたてのお餅をあんこ・きなこ・大根おろしなどでからめておいしくいただきます。温かい豚汁もふるまわれて心まで温かくなります。

このように常盤町自治会では子どもからお年寄りまで気軽に楽しく参加できるようにこれからも楽しい企画を考えていきたいと思っています。



### 松浪小学校区青少年育成協議会

松浪小学校区青少年育成協議会 会長 櫻井 武一

平成29年度の松浪地区青推協の活動も残り僅かとなりました。

今年度の主な活動は5月・10月・1月「おもしろいっぱい遊び空間」、6月「研修会」、7月「子ども大会」、9月「子育て支援講座」、「福祉ふれあいまつり」、11月「松浪中地域ふれあい講座」、12月「公民館ちびっこ広場」などです。毎年恒例11月の「みかん狩り」は雨の為中止になってしまいました。応募していただいた皆様には残念な結果となり申し訳ありませんでした。また、3月には小和田公民館まつりに協力予定ですので、よろしくお願い致します。



公民館ちびっこ広場



松浪中地域ふれあい講座

### 松浪学区子ども会連合会ドッジボール大会

松浪学区子ども会連合会 会長 塩見 愛

松浪学区子ども会連合会では、毎年秋頃に松浪小学校区内の6つの子ども会に所属する、小学生の子どもたちを集め、松浪小学校の校庭をお借りして「松浪学区子ども会ドッジボール大会」を開催しています。

毎年子どもたちが楽しみにしているドッジボール大会ですが、今年度は例年よりも遅い12月の開催となりました。

約140名の子どもたちが青空の下寒さにも負けず白熱した試合を繰り広げました。

ボールからキャッチャッと楽しそうに逃げ回る女の子、ボールに当たり悔しさを隠さず涙する男の子、対戦相手にボールを当てて「ヨッシャー!!」と嬉しそうにガッツポーズをする男の子。

参加した子どもはみんな、本当に楽しそうに汗を流してドッジボールを満喫していました。

今年度は当初11月の開催予定でしたが、荒天の予報で12月に延期となり、12月の開催直前には、インフルエンザによる学級閉鎖が出るなどして、開催するか中止するべきか悩みましたが、子ども

たちの楽しそうな笑顔を見て、開催できて心から良かったなど役員一同思いました。

第46回目となった今年のドッジボール大会も、松浪小学校の先生をはじめ、青少年指導員の皆様、地域の皆様、保護者の皆様のご協力のもと無事に開催できた事を、心から感謝致します。

ありがとうございました。



## まつなみだより

### 2018年を迎えて

松浪地区まちぢから協議会 会長 植松 伸廣

松浪地区にお住いの皆様、新しい年を迎えて益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。

松浪地区まちぢから協議会も市長の認定を受けて約一年、特定事業補助金を活用して、この「まつなみだより」の全戸配布を実現しました。この制度は、茅ヶ崎市地域コミュニティの認定等に関する条例第4条において、市長が認定を受けたコミュニティに対し、地域における公益を推進するための活動に必要な資金に充てるための助成金を交付するものです。そして、茅ヶ崎市認定コミュニティ企画事業審査会での審査を経て、助成金が交付されるものです。

今までに市内では、この制度を活用して「地域広報紙発行事業」、「乳幼児サポート事業」、「中学生の学習支援や子ども食堂のような事業」などがスタートしています。今年、この制度が設けられた趣旨から松浪地区で今、何が必要なのか、衆知を集めて新しいものを作り出して行くことが求められています。

松浪地区まちぢから協議会には、防災対策部会と市民安全部会があり、防災対策部会は地震災害時、大規模火災から如何にして自分の身を守るか、被害状況の把握、伝達、救援要請などのための情報伝達など地域特性を踏まえた地区防災訓練を企画実施しています。また、先般の市民集会で取り上げました、大規模火災が発生した場合の広域避難場所については、今後とも防災対策部会でもフォローして行かねばと思っています。

市民安全部会は、茅ヶ崎市の市民安全部や茅ヶ崎警察署と連携して振り込み詐欺撲滅の活動を続けています。依然として増え

平成30年2月15日発行(第11号)  
発行：松浪地区まちぢから協議会  
印刷：(有) 仲手川印刷



続ける被害を如何に減少させられるか、今年も大きな問題です。

ゴミの問題についても市民集会で取り上げました。これは、私たちの身近な問題であり将来を見据えた対応が必要です。今後、住民説明会なども予定されていますが、松浪地区まちぢから協議会としても市が提案している問題点を整理して他市の視察なども行い、研鑽に努めていきたいと考えております。

2月には、災害時避難要支援者制度に基づく要支援者名簿完全版が各自治会長及び民生委員に配付される予定です。この問題については、まちぢから協議会は直接的な関与はありませんが、各自治会の対応について大きな差が出ない様に、見守っていきたくと思っています。

当地区の社会福祉協議会の活躍は目覚ましく、秋に開かれる福祉ふれあいまつりや特に2月に開かれる「松浪ふれあいネットワーク交流会」は、地域の福祉レベルを向上させる大きな活動と高く評価し共催させて頂いております。

また、松浪コミュニティセンターの管理運営に関しても、昨年の平成29年4月から4年間の指定管理者の指定を受けました。既に年間のご利用者数は3万人を超え、地域の施設として有効にご利用頂いております。4月の新年度から茅ヶ崎図書館の図書コーナーを始められるよう準備進めているところです。

今年も松浪地区の更なる発展のために、皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 松浪地区賀詞交歓会を開催

松浪地区まちぢから協議会 副会長 前田 積

平成30年1月13日(土) 松浪コミュニティセンターで毎年恒例の松浪地区賀詞交歓会を開催しました。茅ヶ崎市から服部市長を始め、夜光・山崎両副市長・神原教育長など職員13名・地域選出市議会議員のご来賓の方々にご出席を賜り、地域の皆様を一同に会し実施することができました。

開会にあたり、緑が浜小学校生徒13名によるヒップホップダンスの若さあふれる踊りで会場全体を包み込みました。



### 編集後記

松浪地区まちぢから協議会広報まつなみだより11号発行いたしました。ご覧ください。

ご意見・ご要望がありましたら、お寄せください。

松浪地区まちぢから協議会 書記 中東 恵子

## 平成29年度 松浪地区市民集会

松浪地区まちぢから協議会 書記 朝岡 通光

平成29年11月26日(土)松浪コミュニティセンターで開催いたしました。

今年度は、市長をはじめ、市役所の部課長、市会議員及び松浪地区住民と総勢100人余りの参加となりました。

松浪地区まちぢから協議会植松会長より、市長の認定コミュニティとしての開催となったこと、住民からの18件の事前質問は、文書にて市より回答を頂いたので、帰りにお渡しする、との報告が有りました。

服部市長より、「将来に向けて持続可能な都市への転換点」のお話があり、「人口が減少していく社会構造の中での行政経営は、受益者負担の適正化等々、見直すべきものは見直して、豊かさを感じながら生活出来る状況を作って行かなければならない」とのご挨拶があり、その後、市民集会の全体会に入り、一般質問では、重要な案件は市民に回覧版で知らせるべきとの意見があり、また、交差点での交通事故対策及び舗装道路の補修の要望がありました。

「避難行動要支援者支援制度のお知らせ」の新たなリーフレットの案内に引き続き、行政が今取り組んでいる「広域避難場所の検討」及び「ごみ処理に係る課題」に関する要点を、それぞれ10分間ほどの解説があり、その後 この件に関する分科会を実施し、深耕しましたが、いずれも残念ながら60分では時間が足りない状況でした。以下に両分科会の模様を担当よりご報告します。



## 市民集会 防災対策分科会

松浪地区まちぢから協議会 副会長 小野江 達人

第1部の全体会で、行政・市民安全部から説明のあった『広域避難場所の検討状況について』について、本分科会では、質問や意見交換を行いました。

(Q) 全体会で行政から説明のあった、「当初の広域避難場所の指定から40年近く経過し、社会環境が大きく変化してしまったことから、茅ヶ崎市全域における広域避難場所の見直しを行っている」に対して、そもそも都市計画の失敗があるのではないか、平成24年より新規宅地開発の100㎡規制ができたが、クラスター化に歯止めがかかったとはいえないのではないかとの意見が出されました。

(A) 昭和40年代からの急激な人口増・開発増についていけなかったのは事実ですが、現在、準防火地域を拡大するなどの方策をとっています。

(Q) 広域避難場所に指定されている茅ヶ崎ゴルフ場は、避難時の誘導路になるはずの場所が樹木に覆われていたり水路があったり、避難ができないのが現状、管理者の所在はどうなっていますか。

(A) 民間の土地、状況を踏まえ行政も協力し解決策を探ります。  
(Q) 松浪地区の広域避難場所は、茅ヶ崎ゴルフ場であるが、大規模火災の発生状況では、色んなケースが想定されま

す。北寄りの地域の人たちが線路を越えての避難の可能性、神台公園など、他市との協定はどうなっているのかお聞きします。

(A) まずは、火災を起こさない行動を取る事が大前提ですが、万一の場合は自分で判断して行動していただき、現在は事業者が管理している場所や建物を含め、指定条件を詰めているところです。また、茅ヶ崎・寒川・藤沢で連携を図っています。

他にも、災害時に燃えにくい街づくりを進める上で、インフラの整備(狭い道路・公園等)など具体的な対策を可視化し目標を示していただきたいという意見が多くあり、行政側からも、中長期的で具体的な目標設定・説明が必要であるとの回答がありました。



## 市民集会 環境問題分科会

松浪地区まちぢから協議会 副会長 前田 積

環境問題分科会には、行政側より、夜光副市長・総務部長・財務部長・環境部長・資源循環課長・環境事業センター所長・職員5名・市議会議員が参加され、分科会が行われました。

今回は、環境問題の中でもゴミ問題で身近に起きているごみの集積場所、カラス被害、ごみ出しトラブル等に関わる問題ではなく、これからのごみ処理に関する課題に限られた意見交換会となりました。資源循環課長より資料による<ごみ処理施設>、<ごみ処理経費>、<ごみ排出量>の各説明の後、意見交換を行いました。

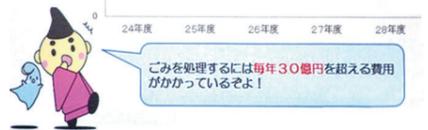
意見の中から寒川リサイクルセンター施設の運用と稼働率、リサイクルセンターのプラ処理問題、ごみ処理を有料化するのであれば、戸別集収を実施するのかどうか、様々な課題が出てきました。

意見交換を行うには時間が無く、課題を残し集会は終了しま

したが、市からの今後のごみ処理に関する問題提起と情報提供があり地域としても重要なテーマと認識しており、行政と一緒に考えていかなければならないと思っております。

平成30年からは、各自治会の要請により市の説明会を実施できると聞いていますので、市環境部資源循環課までお問い合わせをお願いします。

### ごみ処理に係る課題 ③ごみ処理経費



## 松浪地区防災訓練(11月19日実施)

松浪地区まちぢから協議会 防災対策部会 部長 野津手 静郎

訓練は、松浪地区14自治会の参加で実施しました。災害発生時には、避難所となり、又は地区防災拠点になる、松浪地区の松浪中学校、松浪小学校、汐見台小学校、緑が浜小学校4校で情報受伝達訓練を行い、実技訓練を松浪中学校、松浪小学校の2校で行いました。松浪小学校、松浪中学校の実技訓練の様子は各担当責任者の荒牧さん、長谷川さんに、情報受伝達訓練は緑が浜小学校で担当した刈間さんに報告してもらいました。

情報受伝達とは、災害発生時に住民の安否も含め市内の被害状況の全容、優先すべき事案、救援のニーズを把握し、一人でも多くの命を救い、被害を最小にする為に行うものです。4校には市の訓練を受けた配備職員7~8名が配置され、学校に駆けつけた各自治会(2名)の伝達担当者と協力して作業をしました。情報の整理の方法と伝達の仕方など今後の改善点も発見することができました。なお、各自治会拠点と防災拠点との受伝達は、トランシーバーを使用し、防災拠点と対策本部との受伝達は、学校配備のMCA無線機を使用しました。各自治会拠点と



地区防災拠点間の受伝達がトランシーバーで行われたことは、災害時対応として非常に意義があります。

この地区防災訓練の最重要課題である安否確認訓練は、その重要度が高い故に各自治会での取り組み体制、確認する手法等が異なっておりますので、一概に比較出来ませんが、安否確認対象世帯数に対する各自治会の達成率は89%~21%となりました。また 訓練参加動員数は13%~3%となっています。

### 緑が浜小学校・情報受伝達訓練のご報告

緑が浜自治会 会長 刈間 昌仁

富士見町、LG富士見町、緑が浜の3自治会が情報受伝達訓練を行いました。8時30分、市防災対策課、市防災拠点配備職員、自治会担当者が集合、訓練の目的・実施手順を確認し、安否確認報告から訓練がスタートし、続いて情報受伝達訓練に入りました。

各自治会拠点⇄地区防災拠点(緑小)⇄市配備職員(ここで住宅地図で位置を確認、付番)⇄情報受伝達担当者⇄市防災本部。本部で対応を協議し情報がフィードバックされてきます。3自治会で約20件の被害救援情報を順次伝達。11時20分訓練を終了し、反省会を行いました。付番された管理番号を関係者で共有する必要性や、本当に公助を必要とする情報のジャッジ、安否確認方法などについて意見交換を行いました。無線機は、地域対策本部には1台、市対策本部にも十分な台数はないとの事でした。

大規模な災害が発生した時の限界を感じました。それ故、公助の限界、自治会を中心とした近隣住民での自助・共助の重要性を痛感しました。一方、地域の拠点では得にくい津波や火災などの情報は、市対策本部から受ける重要性も感じました。今日の訓練の意義と課題を共有し、12時25分、訓練を終えました。



### 松浪中学校・安否確認訓練等のご報告

松浪中学校拠点長 長谷川 清

松浪中学校拠点では、各自治会の安否確認訓練の後、10時から防災訓練を実施しました。植松会長の挨拶の後、実技訓練として、水消火器による消火訓練、移動式ホース格納箱放水訓練、煙体験訓練を実施、11時からは防災訓練では初めての訓練として、医療救護所訓練を実施しました。地元新家クリニックの先生、歯科医師、薬剤師も参加していただき、保健所職員により、一般参加者を患者役にして、医療トリアージ訓練を実施しました。初めての訓練であり貴重な体験でした。

全体の参加者は約250名、各自治会の参加者に対し、目標の10%は達成できませんでしたが8%の参加率でした。来年はさらなる多くの方に参加していただけるよう、工夫が必要と感じました。



### 松浪小学校・安否確認訓練等のご報告

松浪小学校拠点長 荒牧 喬平

11月19日(日)朝の8時に大地震が起きたとの想定のもとで、まず安否確認訓練が始まりました。各自治会からの情報受伝達訓練要員が、小学校の校長室に集合し、9時頃には安否確認の結果が本部に報告されました。

次に9時15分より体育館での防災講演が始まり、松浪地区まちぢから協議会の植松会長、市から夜光副市長のあいさつの後に「死なない防災(生き残る為の備え)」というテーマで市役所防災対策課の吉留副主査より講話がありました。約350名の参加者は、50分の説明を熱心に聞き入っていました。

その後、4グループに分かれて、応急訓練・搬送訓練・放水訓練・水消火器訓練を体験し、12時には全て終了しました。

今回の応急訓練では、従来の三角巾ではなく、ネクタイ・ストッキングを利用したユニークな訓練となりました。

来年の訓練についても、多くの市民が参加していただけるように期待しています。

